

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(1F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和6年9月8日	評価結果市町村受理日	令和6年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190103743-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が活き活きと笑顔で暮らせるよう一人ひとりの力を見つけながらサポートしています。コロナ禍を経て、ご家族との時間がいかに大切かをご利用者様の姿から強く感じました。感染症を避けつつ、ご家族や大切な方との時間を大切にしたいと思っています。最近は集団で過ごすよりも個人のペースで過ごしたい方が増えてるように感じます。ご本人が望む生活環境が整えられるようご家族にも協力を得ながら安心した生活が送れる環境づくりや個別ケアに取り組めるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺にドラッグストアやスーパーなどがあり、交通の便も良い。利用者とともに買い物に出かけたり、生活を送る上での利便性が高い場所にある。「その人がその人らしく生きる事を支え続けること」を理念に、職員と利用者が共に楽しく笑顔で生活している。職員間のコミュニケーションも良好で、運営上の提案や悩みなど、何でも相談できる関係が保たれている。小学生の登下校を見守る地域の「見守り隊」活動に、職員と利用者が共に参加しており、地域における事業所の存在や認知症理解に一役を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)		1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1F)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人がその人らしく生きる事を支え続けることを使命とします』を理念に掲げています。その人らしく過ごして頂けるよう利用者様の思いや状況把握に努め、職員、関係者と共有して話し合い、理念の実現にむけ日々実践につなげています。	各フロア毎に理念を作成し、廊下や事務所に掲示、実践に繋げている。研修時や倫理についての話し合いの際に、全職員で共有しながら理念の振り返りを行い、より良い支援の実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を回したり利用者様と一緒に掃除活動、文化祭などに参加しています。利用者様と近所を歩く際は挨拶をかわし、地域住民との交流をなくさないよう取り組んでいます。	利用者と共に、小学生の登下校を見守る地域の「見守り隊」に参加している。また、利用者の作品(折り紙・貼絵・書道など)を地域で行われる文化祭に出展するなど、交流の機会としている。	地域の中での事業所の役割(介護相談窓口や場所の提供など)を担えるような体制作りや、災害時などの緊急時に、協力を得られる関係構築に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事や日常の出来事を写真で紹介しています。以前の運営推進会議にて食事について興味を持たれたので、食事の形態、きざみ食、ペースト食の試食会を行い感想を頂きました。	会議には利用者も参加しており、議事録からも利用者が発言する場面があった事が伺える。地域の各種団体に加え、家族や行政とともに、利用者にとっても最善の利益が得られるよう開催されている。議事録は欠席家族へも送付している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度について電話やメールで問い合わせ、助言を受けています。運営推進会議で市の介護福祉課、地域包括支援センター担当者の参加があり施設の実情を伝えていきます。	介護保険課や高齢福祉課のみでなく、生活保護担当課や子ども110番の家を通じて、子ども関係の課と関わることもある。必要に応じて様々な窓口へ出向き、相談ができる体制がある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束になるのか考えケアをしています。身体拘束0会議を定期的に行い、見直しを行ったり研修に参加して具体的な身体拘束の行為について理解し身体拘束をしないケアに努めています。	3カ月に1度「身体拘束0会議」を開催している。拘束の可能性や回避する為の具体的な対応策を話し合い、身体拘束をゼロにする取り組みを行っている。スピーチロック研修も積極的に取り入れ、職員の資質向上を図っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人主催の研修と事業所での研修会で具体的な行為について学んでいます。自身や他職員が該当する行為を行うことがないよう注意を払ってケアに努めています。	虐待防止委員会を開催し、虐待についての認識を職員間で統一できるよう働きかけている。ガイドラインの再確認やヒヤリハット事例の共有、職員同士で声をかけあいながら、虐待につながらないケアに取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格試験で学んだが活用できていませんが、どんな制度なのかしっかり学びどんな時に必要なのか頭に入れておきたいです。ご入居時、必要だと思う方には成年後見人センター等支援に繋がっています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の代表者がオンラインを利用して説明し、管理者が立ち会っています。不安な点など確認しながら説明を行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会に来られた時に意見や要望を聞き管理者、ケアマネ、他職員に伝えていきます。利用者様や家族様が意見が言いやすい施設作りや環境を整えていきたいです。	家族向けアンケートを実施し、家族の思いを聞き取りながら、職員間で共有し支援に繋がっている。家族側からは「好きなものが食べられる。」「家族としてお手伝いできることがないか」などの意見が出されている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議や普段でも話をし、職員間での話し合いに繋がっています。カンファレンスをしてどんなことがあったかわからないことがあったら聞き、働くことができます。	管理者も現場に入っており、日々、職員とコミュニケーションを図っている。年1回、個人面談の機会を設け、キャリアシート作成などを通じて、職員の意見を受け止める仕組みが整っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	休みをしっかりともらっていて充実した生活を送ることができます。周りのスタッフとも気軽に話すことができます。ホーム担当員や雇用契約の更新の時に実践状況や日頃の努力等に応じて反映があり向上心をもって働けてます。	職員の要望を受けて休憩室を整備し、仮眠もとれるようにしている。また、管理者は、コミュニケーションを図りながら、職員が希望休や産休・育休、有給休暇などを適切に取得できるよう、就業環境・職場環境を整えている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の掲示や法人内研修が充実しています。今年の2月に福祉の仕事について話す交流会に参加しました。すごく楽しかったし勉強になりました。研修を受ける際シフト調整のサポートがあるので働きながら学べる体制が出来ていると思います。	年間を通じた研修計画があり、職員の知識をブラッシュアップする機会を設けている。また、外部研修の情報提供を通じて、職員が自発的に学ぶことを促している。キャリアシートを作成し自発的に学んだことは人事考課に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内、社外研修の機会があり参加できるように勤務を調整してくれます。ほかの事業所の方とリーダー勉強会や幹部会議の時に話をする機会がありアイデアをもらったりしています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、料理等教えて頂いたり、手伝っていたり関係を築けるようにしています。利用者様にできる事はお願いしてお礼を伝え、良い関係作りを意識しながらおやつレクや作品作りなど一緒に楽しんでいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく過ごして頂けるように日々の様子から本人様の希望、意向を尊重しカンファレンスや申し送り等で情報交換します。自分らしく生活して頂けるように一人ひとりの介助の仕方を変えています。難しい方は本人本位になるよう他職員と検討しています。	日々、利用者との関わりや観察して気付いた事など、把握した情報は申し送りを通じて職員間で共有している。共有した情報は定期的にあセスメントシートとして印刷し、個別ファイルに綴じている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで自分の気付く点を伝え、よりよく生活して頂けるように課題を見つけようすればうまくいくか話し合いを行っています。利用者様の意見を聞き、出来そうな内容は管理者や職員と相談し実践できるよう取り組んでいます。	医師や薬剤師、歯科医師等と連携しながら介護計画を策定している。家族も参加して丁寧にモニタリングを実施し支援に繋げている。特に歯科医からアドバイスを受けることが多く、介護計画の評価に取り入れている。IT化に伴って、プランを意識できるよう検討している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤最初に必ず日誌や申し送りの特記事項など確認し把握に努めています。日々の様子やケアでの気づきを記録にしっかり残し、介護計画の見直しやケアの工夫について話し合っています。	タブレット端末を導入している。音声入力などを活用しながら記録の効率化を図り、利用者に関わる時間を増やしている。個別記録の記載方法を統一化して有効活用できるよう、現在、管理者が見直しを行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の訴えに耳を傾け、職員の都合ではなく利用者様にあわせた対応をしています。利用者様から話された内容でニーズになりえるものは情報共有し、一人で抱え込まず相談し、カンファレンスで皆で話し合っ柔軟なケアができるように努めています。	飲酒や理美容の利用などの希望を聞きながら、利用者それぞれのニーズに合わせ、柔軟な支援を心がけている。把握したニーズについては、カンファレンスなどで話し合いながら情報を共有し、より良い支援に繋げている。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安全に楽しく生活して頂く為にボランティア活動の下校時のみまもり隊と一緒に出来るようにしたいです。訪問看護や病院、美容院など一人ひとりの利用者様が必要としている地域資源を把握するようにしています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族様にかかりつけ医の説明をして選択して頂きます。往診の場合は日常の様子を伝え、受診の場合は家族様に様子を伝えたり、変わりがある場合は文書にして主治医に伝えています。	入居時に、かかりつけ医について説明を行い、本人・家族の意向をもとに、かかりつけ医を選択している。受診の際は、家族対応を依頼している。口腔ケアについては、歯科と連携を図りながら行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医と病院関係者、家族様との情報交換や相談をし早期の退院受け入れが出来るよう心がけています。利用者様の具合が悪く救急車を呼んだ時に必要な情報は何かできることはないか考えて行動しました。	入院時はサマリーを用意し、すぐに提供できるよう準備をしている。退院時のカンファレンスには管理者または計画作成者が参加し、病院からホームへの移行がスムーズにできるよう働きかけている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明しています。心身の変化毎に家族様に施設での出来る事を説明、主治医の説明も聞きながら方針を決めて頂いてます。利用者様がここよかったと思って下さるよう支援していきたいです。	契約時に、重度化や終末期について説明している。日頃から家族とコミュニケーションを図り、状態変化に応じて、主治医や関係者等と相談しながら方針を決めている。看取りは、ここ2年ほど行なっていないが、研修を実施しながら、万全の支援が行えるよう備えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルが事務所に掲示されています。利用者様の表情や顔色、行動をよく観察し変化があった時は周りのスタッフにも伝え対応しています。急変や事故発生時に対応できるよう勉強に励み落ち着いて対応できるよう備えています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害訓練を定期的に行っています。訓練をしてどのような行動をとるのか確認し終わったあとに振り返りを行い改善点をみつめています。	ハザードマップの確認を行い、BCP策定を完了している。避難経路となっている出口に段差があるものの、実際の避難訓練では使用せず、玄関からの脱出を想定した訓練を行っている。緊急時には、全職員に一斉メール配信を行っている。	職員の緊急連絡網は整っているが、夜間の災害時は、遠方の職員では対応が後手に回ることが予想される。地域との連携を密にし、支援体制作りの協議が行われることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に寄り添える言葉かけを心がけています。声のトーンや目線を合わせる事を意識し、伝え方に気を付けています。人格を尊重し不快に感じないよう言葉に気を付けて自尊心やプライバシーを損ねないように、特に入浴排泄介助時は気を付けています。	常に、一人ひとりの人格を尊重した対応や言葉かけに配慮した支援を行っている。入浴支援時には、希望に応じて同性介助で対応している。排泄介助時も、誇りやプライバシーを損ねない対応を行うよう努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えられることはできる限り応えられるように努めたいです。入浴の時に洋服と一緒に選んでいます。利用者様が何をしたいか聞いたり、行動を見て気付くようにしています。食事後の飲み物などちょっとした内容でも希望を聞き自己決定できるよう支援しています。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間に召し上がられない方がいたら時間をおいてお出ししたり声掛けを行っています。やりたい事を聞き希望に合うよう支援したり、無理強いにならないように一人ひとりのペースで過ごしていただけるように支援しています。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの相談や下準備や盛り付け等できる事を手伝って頂いています。好き嫌いを1人1人覚えておき代用できる食材に変えたり食べにくい方だったら刻んだりミキサー食、食事量が少ない方にはタンパク質を多く含む食材など食事の工夫を心がけています。	本人の希望も聞きながら、一人ひとりの状態に配慮した献立作りを心がけている。食材は家族からの差入れを活用したり、利用者とともに近くのスーパーに買い出しに行くこともあり、食べる楽しみにつなげている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量を記録し摂取量を把握しています。水分量が少ない方にはお声掛けしたり、お好きな飲み物をお出して気分よく摂ってもらえるようにしています。一人ひとりの状態や力に応じて提供の仕方を変えて支援を行っています。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を装着されている方は夜間、洗浄剤につけお預かりしています。ご自身で口腔ケアされる方で声掛けが必要な方には毎食後の声掛けをしています。一人ひとりの力に応じて声掛けや一部介助、全介助等支援を行っています。	一人ひとりの口腔状態と本人の力に合わせた、口腔ケアを行なっている。食後の声掛けを行い、必要に応じて、介助も行なっている。歯科医師とも連携を密にして指導を仰ぎ、ケアプランに反映させている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴えない方は定期的に声掛け誘導し介助を行っています。排泄の失敗が多くなってきている方には排泄動作の何処で介助が必要なのか、カンファレンス等で介助のタイミングを話し合っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様のペースに合わせて定期的に入れるように常に準備しています。入りたいと希望された方を優先したり利用者様と相談して何時頃入浴されるか決めています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを職員が把握し、夜間眠れていないなど、その日の利用者様の様子に合わせ職員が連携し休息して頂いてます。食事の後、横になりたいと言われる方がみえたりご自分でベッドで休みに行かれる方がみえます。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報に目を通して理解するよう努めています。変更があった場合は特に気を付けて変化の確認に努めています。利用者様と一緒に名前と日付を確認し服用して頂いています。	利用者毎の個別ファイルに薬剤情報を記載し、どの職員でも確認ができるようにして、管理している。薬の変更があれば申し送りノートで共有し、訪問薬剤師とも連携しながら、形状や一包化についての相談もしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ方が違うことを考慮し無理強いにならないように心掛けています。ネイルをさせて頂いたり母の日に化粧をさせて頂きました。気分転換のため事前に意見を聞き興味を持った事をレクとして取り組みました。	「その人がそのひとらしく」が理念にあるように、入居前に丁寧なアセスメントを実施し、利用者が日々、楽しく過ごせるよう工夫している。職員間でも、利用者それぞれの様子について記録し、情報を共有している。	利用者が、日々楽しみにしていることや、役割などをケアプランに位置付けるなど、継続的に「その人らしさ」を支援できるような取り組みに期待したい。
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望の外出は難しいですが、買い出しやドライブをかねて道の駅に行ってきました。暖かい日に公園まで散歩に出掛けたり花が好きな方には花が並んでいるところに散歩に行きます。声掛けを行い希望された方と外出するよう支援しています。	周辺には公園やスーパー、郵便局などもあり、外出先として、よく利用をしている。また、事業所周辺を散歩したり、「見守り隊」などの役割を担うために外出をすることも、地域との交流に繋がっている。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にてお小遣いを預かりいつでも買い物に行けます。利用者様からお菓子や消耗品の買物を頼まれた職員がお小遣いから購入しています。ご自分で少量の金額を所持されている方もおられます。レクでお金を所持し使える取り組みを考えています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がお持ちになっているスマホやガラケーで電話をされていたり、行事がある時にご家族様へ手紙を出しています。手紙を書いてみないか利用者様に提案し書かれる方もおられます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花やポスターを飾っています。テーブルの上には季節の花を置いたり、毎月、季節に合ったポスターを作成し壁に貼らせて頂いています。利用者様の希望に合わせ季節に合った音楽を流しています。	利用者の書道作品や貼り絵、折り紙や塗り絵などの作品が所狭しと飾られている。リビングの窓から日差しが入り、明るく暖かい環境である。玄関や廊下には防犯カメラがあり、転倒事故などの確認に活用することができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごせる時間や気の合った利用者様同士で過ごせるなど自由に過ごせるような雰囲気を作っています。よく話をされる利用者様同士同じテーブルにお誘いしてみたりと過ごしやすい空間を作るようにしています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れたものや好みのものを取り入れた居室作りをしています。使いなれているものを置いたり昔の写真やアルバムを置いてみえる方もいらっしゃいます。利用者様と一緒に作った作品を持ち帰って飾られています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレに手すりをつけ車いすがスムーズに移動できるよう環境整備をしています。床に物を置かないことや廊下の手すりに物を掛けないようにしています。安全な動線を確認し、表札やトイレマークで迷いにくいように目で見えてわかるようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(2F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和6年9月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者が	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2F)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の際に職員で唱和しご利用者様に接するよう努めています。”その人らしく支え続ける”という理念を日々意識し努めています。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と散歩に出掛け、近所の方と会った際には挨拶などさせて頂いています。地域のゴミ拾いに参加したりバザーを開催し地域の方も利用者様も参加されています。文化祭に出品して見に行き、地域の方と交流してきました。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設会議やカンファレンスで話し合いをしてご利用者様への日常支援を考えて行っています。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設会議で改善課題など話し合ってサービス向上に活かしていけるように取り組みを行っています。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	週に1回のペースでカンファレンスを行い気になることを話し合い取り組んでいます。身体拘束の理解を深める為の研修を受けています。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修を受け普段の行動に注意して身体拘束のないケアをさせて頂くように努めています。年2回の虐待防止研修を受けています。不適切ケア対応ガイドラインに則っています。			

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる方には成年後見人センターに繋いでいるが、職員には学ぶ機会を作っていないので、機会を作りたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人代表が説明し、管理者が立ち合い丁寧に説明しています。不安な点や疑問点は理解して頂けるよう分かりやすく説明しています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し職員間でアンケート結果を共有、改善にむけて話し合っています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアごとに週1回カンファレンスを行い、1か月に1回施設会議を行い意見を言っています。勤務時間帯や給与に関してなど話し合いの場があり理解の上で合意ができています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	受けた外部研修の助成金が受けられるよう協力しています。初任者研修の研修費や介護福祉士受験費用負担など向上心を持って働けるような支援があります。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修の機会があります。自分が興味のある外部研修に参加出来るように情報提供しています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内でも勉強会等をオンラインで開催しています。他施設の職員と話したり勉強会などで良い事を取り入れサービスの質の向上をさせています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという関係を築く意識をしながら洗濯物たたみなどご利用者様と一緒にを行っています。食器拭きや洗濯たたみを一緒にしています。親しみをこめて接すると同時に敬意を示すことにより信頼関係を築く事が出来るように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話せる方にはどうしたいか話によく耳を傾け本人の意向の把握に努め、日頃の会話の中で得た情報を記録に残し情報を共有しています。会話や生活記録から思いを汲み取りケアサービスの提供に努めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態をお伝えし、ご家族の思いや意向、ご本人の希望を取り入れケアプランを作成しています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や顔色などで観察し気付いたこと、ケアプランや日常生活に関する事で問題点や様子を共有出来るようにしています。タブレットに記録、日報に記入、申し送りで情報共有できています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況、体調に合わせ、柔軟に支援できるよう努めています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの文化祭に作品を出展させて頂いています。今後も参加できたらと思います。散歩の際、スーパーや病院前を通ったり、樹木や建物を見て頂いています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や受診の際は日々の様子など伝えています。良い関係が築けるように努めています。利用者様の変化などを記録し口頭で伝える事もしています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	いつ退院しても安心して過ごして頂けるように各主治医や訪問看護と連携を図っています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、ご本人様と入居の際に十分に説明をさせて頂き、関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度、勉強会を実施しています。緊急時の対応について手順書を定めフローチャートを作成掲示しています。応急手当の訓練について機会があれば身につけたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っています。地震や水害等の訓練も行っています。夜勤専従職員の訓練への参加が出来ていないがマニュアルの説明は受けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の研修に参加して言葉かけの工夫や言葉使いについて気を付けています。難しい場合は対応する職員を替えています。トイレ誘導の声掛けは他利用者様に聞こえないように声の大きさに気を付けています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断でなく、ご本人様に意思確認をしています。会話で困難な時はホワイトボードを活用し文面で働きかけています。○○と○○どっちがいい等選べる方には自己決定しやすい方法で働きかけています。言葉に出来ない方は表情を見て支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方にあった起床時間や食事の好みなど出来る限りの支援を行っています。会話や生活記録から利用者様の希望に沿って支援をしています。個々のペースに合わせる事が難しいこともあるが、希望を尋ねるようにしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食べたい物などお聞きしてランチレクなどで召し上がって頂いています。旬の物を召し上がって頂いたり、食器洗いや拭き、片付けを一緒に行っています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、水分摂取の低下がみられた時などは補食など提案させて頂いています。職員同士の声掛けにより支援をしています。量や栄養バランスを考えながら作り、一人ひとりに見合った支援をしています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声掛け、そうでない方には支援をさせて頂いています。自己にて困難な利用者様は口腔ケアを全介助にて行っています。毎食後に全介助、朝夕食後に声掛けや口腔ケアをご本人の力に応じた支援をしています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に合った時間で声をかけさせて頂いたり、ご自分で行かれない方は自尊心を傷つけないように配慮して交換しています。個々の排泄状況を把握しトイレで排泄できるように支援しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴にお誘いしても希望されない時は変更させて頂いています。「シャワーがいい」「朝一番に入りたい」といった要望に応じて支援しています。入浴がお好きでない方はタイミングを合わせて入りやすいように支援をしています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂き、夜間にご利用者様のペースで居室に戻れるように努めています。「眠い」「疲れた」などの言葉を聞き逃さず休息できるように支援しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調や行動の変化がみられたら主治医に報告させて頂いています。利用者様の体調に変化があった時は記録スタッフや管理者へ報告しています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや食器拭きなど引き受けて下さっています。散歩にも出掛けています。夕食後のゆったりした時間にお好きな歌手の映像をYouTubeで楽しまれています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防に努めながら希望に沿った外出の支援に努めています。涼しい季節になったら散歩を再開し紅葉を見に外出支援をしたいです。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にお預かりしています。買物が有れば個人のお財布から買物をしています。「〇〇が欲しい」と申出があった時はリーダーや管理者へ伝え対応しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が電話をかけたいと言われた時は支援させて頂き、電話の取次ぎを行い近くでなく距離をおいて見守りしてます。暑中見舞いや年賀状作成を一緒に行っています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい温度と湿度を設定して過ごしやすい空間を作っています。リビングに日めくりカレンダーが設置しており、季節に応じた飾り付けを行っています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士で思い思いに過ごして頂いています。テレビやYouTubeを見たり音楽を聴いたりして利用者様同士楽しそうに会話されています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた物や好みの物を活かし、居心地よく過ごせるようにさせて頂いています。使い慣れた枕やタオル、洋服などは清潔を保ち居室へ置き居心地の良い空間作りをしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーを活用し自立した生活が送れるようにしています。トイレの場所やリビングの自席、自室がわからなくなった利用者様へは声掛けにて支援しています。		